

6 国立公園内の森



7 阿寒湖とマリモ



9 双湖台

前は絶滅の危機となっていたが、近年は自動車との衝突事故が年間2000件もあるほど、社会問題となっている。

阿寒湖では、鶴雅アドベンチャーズSIRIを訪ねた。マリモの写真を見せてもらい、こんなに大きいのかと驚いた(図7)。現在、マリモは世界中を見渡しても阿寒湖だけなのだそう。

次に、阿寒湖アイスコタン(集落)で数々の木彫りを眺める(図8)。同行したメンバーが「熊ぼっこ」や「鮭にくわえられた熊(熊が鮭をくわえる、のではなく)」への想いをお店のおばちゃんと共に熱く語っているのに惹かれて、この置き物を2つとも買うことになった。まさに衝動買いであるが、今では、置き物チームの一員として研究室に鎮座している。

阿寒湖から屈斜路湖への経路は原歩道を再び抜ける。途中、双岳台という見晴し台から、パンケトーとペンケトーの湖が樹林の中に見えた(図9)。次に、双岳台という見晴し台もあって、ここからは雄阿寒岳と雌阿寒岳が眺められる(図10)。それにしても、本当に静かである。

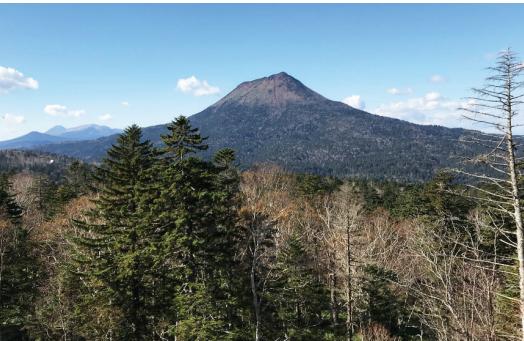
日本最大のカルデラ

阿寒周国立公園には、屈斜路カルデラがある。これは、長径約26km、短径約20kmと、実は九州の阿蘇カルデラよりも大きく、日本最大である。屈斜路湖は、屈斜路カルデラの内側にあり、日本の湖沼としては6番目の面積、カルデラ湖としては最大である。

美幌峠は、屈斜路カルデラの外輪山に位置する標高525mの峠。ここからの景色はまさにパノラマ(図11)。湖の中央には、湖中の島としては日本最大である中島が見え、その先には「川湯の森ナイトミュージアム」の舞台である硫黄山(アトサヌプリ)や川湯温泉、さらには摩周湖のある摩周カルデラの外輪山が望める。肉眼では見えないが、地図で確認すると、この方角のずっと先は、根室である。

摩周ブルー

摩周湖は、日本で最も透明度が高く、世界でもバイカル湖(ロシア)に次いで2番目に高い。世界一だったときも



10 双岳台



12 裏摩周展望台での夜明け



13 牧場

今回の旅は、川湯の森ナイトミュージアムの見学が中心であり、移動はそれほどしていないつもりであったが、2日後、再び釧路空港に戻ってみると合計462kmも走っていた。大阪から東京までとほぼ同じ距離を走了ることになる。



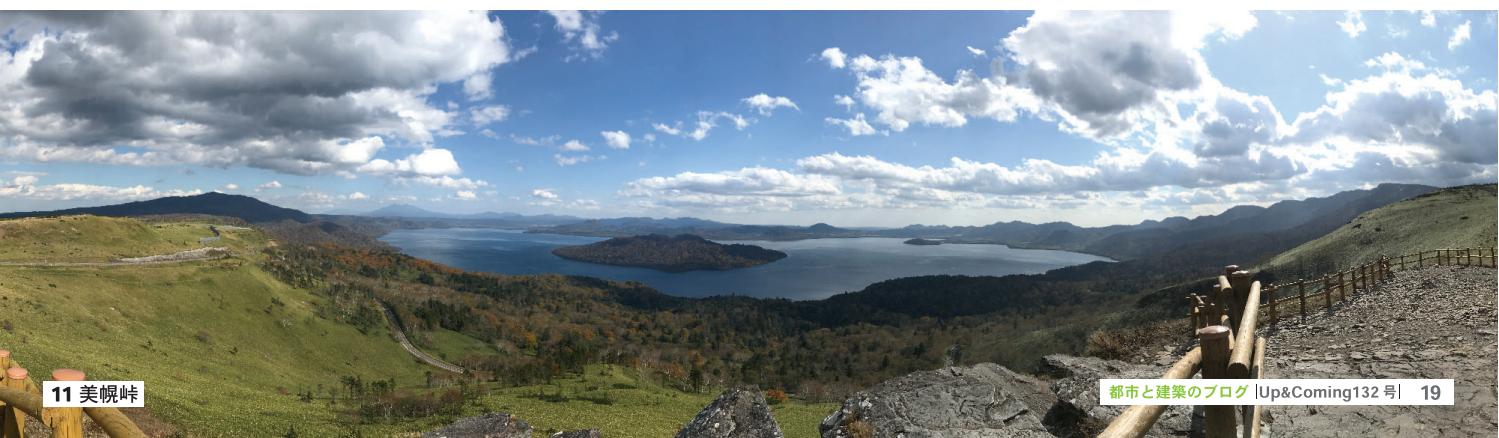
14 サルボ展望台より塘路湖と湿原



(図15) !以前、水木しげるロードリニューアルや境港市民交流センター(仮称)プロジェクトのため境港を訪問した折、北海道の漁船を見かけた時と同じ感動。そしてもうひとつ湧いてきた疑問は、昨日、釧路川源流で出会った水は、いつ、ここまでやって来るのだろう?



15 釧路港で境港の船に会う



11 美幌峠